明日から使えるＭＤＲ商品解説

（ver.1）

糸練功の技術のレベルに応じた使い方

※原料に関する詳細な解説は MDR さんへ申請されてください。

＜注意＞

あくまでも大滝の考えによるもので特に代用方法などは他にもいろんな使い方がありますが、今回は大滝が今まで経験して良かったことを中心にＭＤＲの資料も参考にしながら取り上げています。

代用方法は比較的広範囲にわたり適用が認められますが、海に大きな網を投げて魚を捕まえるようなもので、ピンポイントで狙ったものをしとめる方法ではないです。病気の種類や時期によって証がピッタリあっていないと改善しないこともあれば、おおまかにあっていれば改善していく場合もあります。代用だけを求めていては漢方治療の腕はあがりません。糸練功の技術レベル、理論が向上していくことでよりピンポイントな治療が出来ていけるようにしていきましょう。お店によっては結果的に代用薬方しか出せないこともあると思いますが、答えは導けるようにしていきましょう。

竜仙　（瀉剤）

○特徴

竜仙は滞っているものを廻らす（気を廻らす）、発散・発表させることをメインとして使うことが多いです。

竜仙がよく働く病位は、『太陽病』であるため単独で使用する場合は、太陽病位のケースが多く、また合方もしくは補助として使う場合は陽証で用いるべきです。

体内の重金属を抜くための方剤でもある→玄米の強力バージョンと言うことが言える。

と、いうことはミネラルの排出が強化されることなので、貧血の人など長期は好ましくない。

○使い方：その１（糸練功を用いなくても使える）

・駆瘀血剤との組み合わせ

填南仙や紫丹精を飲む 15－30 分前に竜仙を飲むことで、駆瘀血剤の効果を高められる。

難しい場合は、同時に飲んでも構わない。

・気剤として用いる

桂枝加竜骨牡蠣湯など気剤が必要な証の場合、エキス製剤を用いるとどうしても気剤不足になる。その気剤を補うのが竜仙で、効き目が違う。

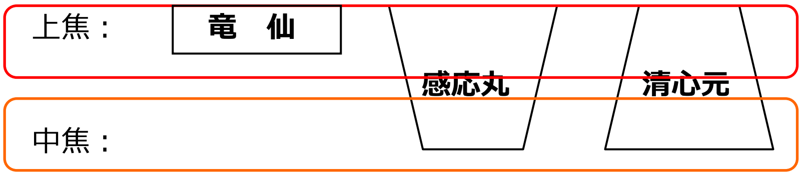
また、気剤を加味したいけど出来ない場合に竜仙を加えても良い

・竜仙は温めて発表をするため、太陽病には全て+αすると良い。１日１回でも構わないと思います。

・風邪

引き始めの邪氣を払うときから竜仙は適用ではあるが、特に熱がピークに達し下げる時期に適している。単独でもＯＫ。

※竜仙、感応丸（ラピー）、清心元の違い



葛根湯証には、竜仙や感応丸を用いるのが望ましい

温病のように内側に熱が入ったものには、竜仙は不適で、感応丸や清心元が適す。

・温病：桂麻三兄弟、小青竜湯加石膏証など感冒のページを参照して下さい。

・竜仙中の青皮が乳関門を通しますので乳腺症に竜仙合葛根湯や、化膿症や膀胱炎の初期に単独でも使用できます。

○使い方：その２（ある程度の糸練功が使える）

・石膏剤として用いる（主に太陽病においてのみ）

石膏が加味されている目的は主に清熱・利水作用、激しい症状を抑えることです。

例）麻杏薏甘湯加石膏、小青竜湯加石膏、葛根湯加石膏

・桂枝湯や加桂枝の代用に

・気塊に対して何を加味したら良いかわからないときに加える

・喘息の甘草麻黄湯　＝　竜仙合甘草湯加スクアレン

牡蠣仙　（補剤）

○特徴

化石牡蠣を 800 度で焼きアミノ酸を取り除いて（炭化して）ミネラルだけになっている

（カルシウム：ミネラル＝4：6）

カルシウムの血管壁沈着・蓄積の予防（通常のカルシウム製剤は、血管壁に沈着・蓄積し治ることが出来ない動脈硬化を引き起こす）

血管の収縮をできるだけ抑えた。・・・色々なカルシウムを使って脳血流を見てみて下さい。

牡蠣の瀉性を補性に修正

○使い方：その１（糸練功を用いなくても使える）

・骨密度強化として血管壁への沈着・血流問題を最小限に抑えながらカルシウム・ミネラルの補給ができる。

・ぎっくり腰の応急処置に。１回に牡蠣仙２包を薄いお酢で。

少量の石膏を加えてもよい。　急性蕁麻疹等の痒みにも効あり。

・膵炎の炎症に対して、風参合牡蠣仙

・筋肉のこわばりに対しての芍薬甘草湯証＝竜仙合牡蠣仙

芍薬甘草湯（効は早い）を続ける場合、甘草による副作用が問題になる。

それを解消したのが竜仙合牡蠣仙の組み合わせ。（外用にはスクアレンを塗布する）

・鼻炎の補助剤に

鳳水仙が開発される前は、風参合牡蠣仙と言う組合せが用いられていた。したがって、鳳水仙をメイン処方にし補助で風参合牡蠣仙を用いる。

○使い方：その２（ある程度の糸練功が使える）

・骨粗しょう症が疑われる関節痛・神経痛に用います。

防已黄耆湯の代用として用います。（詳しくは、下記の方で説明）

・ガンの腫瘍成長を抑える

使い方といては、良塊仙・竜仙・黒芝・キトサンなどとの組合せがある

例）　牡蠣仙加黒芝　、　良塊仙合牡蠣仙合竜仙加黒芝キトサン

○ワンポイント

・薄いお酢で飲むと、ミネラルはイオン化され吸収率が高まる

・牡蠣仙を飲むとゲップがでます。げっぷが出るくらい飲むのが効果的だが、ゲップがでない場合はお酢が薄すぎる。

・浮腫みを引き起こす可能性があります（牡蠣＝鹹い＝潤）。→五苓散で対応

・カルシウム製剤が筋肉を収縮させることで引き起こす３つの副作用について

①　腸管の収縮：腸の活動が高まる⇒水分の吸収量↑⇒便秘になる方がいる

②　冠状動脈の収縮：心臓の周りの動脈が収縮すると血流が低下⇒心筋梗塞・狭心症↑

③　脳血管の収縮：血管が収縮し血流が悪くなる⇒血圧↑・血管が破れる可能性が出てくる

※牡蠣仙は通常のカルシウム程ではないが、少なからずこのリスクはある。

賦骨仙　（補剤）

○特徴

・グルコサミンの量は、変形性膝関節証に対し４Ｗ後に有効性が 90%と報告されている

1.5ｇ／日とした。

・脳内モルヒネを出すと思われる生薬の中で最も強い降香を採用。またその降香で引き起こされる脾虚を曲参で抑えるとともに、降香の働きを高めている。

・附子を用いた薬方の代用になり、附子を用いなくてもよい安心感がある。

○使い方：その１（糸練功を用いなくても使える）

・グルコサミン製剤として活用。

・脱肛に用いる

できれば基本薬方+補助で賦骨仙としたいが、基本薬方がわからない場合は賦骨仙単独で多めに。筋肉を引き締める以外に、肌に潤いを持たせるのでシワ少なくなったりもする。

・尋常性乾癬に対して、賦骨仙単独（標治）でも効きます。

外用に、スクアレン（本治）でほぼ完璧

・帯状疱疹後神経痛に対して有効・・・多めに用いる（疎経活血湯加味方証かな）

解血仙でも可能

○使い方：その２（ある程度の糸練功が使える）

・糸練功で「肺」に賦骨仙証が見られる場合は、免疫の問題があり。自己免疫疾患を疑う。

・関節痛、神経痛の補剤（慢性化したもの）に対しての証に有効

例）桂枝二越婢一湯加苓朮附、桂枝加苓朮附湯、越婢加苓朮附湯、葛根加苓朮附湯

疎経活血湯（賦骨仙倍量で）・・・詳しくは下記の方で説明

※八味丸、六味丸、五積散系統の証の代用にはならない

・自己免疫疾患の多発性関節証にも有効

○ワンポイント

・賦骨仙は、筋肉を引き締める力を高めるほかに、神経の伝達をスムーズにする、骨・軟骨の修復を高める働きがあると位置づけて使用している。

風参　（補剤）

○特徴

・補としてとらえたときの補剤になる・・・慢性病の広範囲に補助剤として使える

・風毒・ウイルス対策

・免疫力を高める

・「脾を補う」＋「五苓散（陽明病）」を併せ持った働きがある

○使い方：その１（糸練功を用いなくても使える）

・抗ウイルス剤として用いる

風参単独の場合は、どちらかと言うとスピードが遅い代わりに体質改善・再発予防を促進する。

スクアレンも同様に抗ウイルスとして用いる。コチラはスピードが速い。

スクアレン（表に働き）⇒風参（裏に働く）　の順番で飲むのが理想的。同時でも可。

竜仙、気仙、雲竜仙も含め検討する

・インフルエンザ・風邪の予防

流行するウイルスによって風参が適したり、スクアレンが適したりするので両方飲んでいると予防効果高い。

・熱中症の予防に。五苓散と同様の働きがある為。

○使い方：その２（ある程度の糸練功が使える）

・半夏厚朴湯証・系統証に対して代用として用いることができる

スクアレンも同様（五志の憂、甲状腺機能低下症など）

・卵管の癒着などの脾虚による癒着に

六君子湯の代用になる（スクアレンも同様）

・化膿症・・・托裏消毒散証の代用になる

・六味丸加人参や六味丸合人参湯などの加人参、合人参湯の代用として風参が使える場合がある

あとは、八味丸や当帰芍薬散、補中益気湯などがある

・当帰芍薬散加芍薬の加芍薬の代用にもなるようですが、個人的にはスクアレンを用いています。

雲竜仙 （瀉剤）

○特徴

コレステロールを体外に排泄する目的で作られ、現在はさらに肝臓の炎症を取る働きを追加した働きをします。

高吸収タイプであるクルクミノイド複合体 95%含有の鬱金抽出物になります。

クルクミノイド複合体は、肝機能改善や抗炎症効果があり、アルツハイマーや関節痛、リウマチなどの炎症に対しての効果が期待できます。

○使い方：その１（糸練功を用いなくても使える）

・高コレステロール血症に

山査子は利胆作用が強くコレステロールが一番取れやすい

・脂肪肝　肝機能の改善に

・お酒の解毒にも

○使い方：その２（ある程度の糸練功が使える）

・抑肝散系統証、四逆散系統証の五志の憂に

・痔　乙字湯系統証に対する肝臓のうっ血に

・肝炎

　Ｂ型：人参湯合五苓散　＝　雲竜仙加スクアレン

　　　雲竜仙合気仙　の組み合わせもあり

　Ｃ型：黄耆建中湯　＝　雲竜仙＋瑠璃百仙、雲竜仙＋風参（風参は１時間後に飲む）

・肝硬変

・リウマチなどの炎症対策に　骨仙など飲み合わせながら

解血仙　（瀉剤）

○特徴

解血仙は悪性・良性問わず、腫瘍・ポリープに対して使用します。

がん治療で用いることが多かったのですが、治療をされていた方の血栓や梗塞が解消されたことがわかり、陽のオ血による腫瘍や筋腫、血栓に対しても有効です。

専売品の中でも特に優れた一品です。手に載せ百会で糸練功を取ってみてください。持ってないときと比べ多くの st が消えていくはずです。と言うことは、解血仙だけで多くの不快な症状がゆくゆく緩和していくことを示していると考えられます。

○使い方：その１（糸練功を用いなくても使える）

・陽の瘀血の解消に

　解血仙は緩やかな作用ではあるが体全体に対し効がある。

　　上焦の陽のオ血に対しては、紫丹精

　　下焦の陽のオ血に対しては、填南仙

　　　　紫丹精と填南仙の併用に関しては、１包に２粒が副作用の出にくい比率

・糖尿病の余病予防に

　血糖値が上昇すると血流が低下し、梗塞・血栓がおきやすい環境となるため、体全体の血流改善に用いることも可能。

瘀血について

陽の瘀血（ドロドロ血）：　桂枝茯苓丸など・・・填南仙・紫丹精・解血仙など

陰の瘀血（貧血・薄い）：　当帰芍薬散など・・・桜精・バイオリンク・風参など

チンキュウの瘀血

の３つの種類がある

○使い方：その２（ある程度の糸練功が使える）

・五志の憂にて

抑肝散加味方証、四逆散加味方証の代用として用いることが可能

他に、爽快仙、雲竜仙、五志源でも代用・組み合わせが可能

・ガンに対して腫瘍を小さくしていく目的で使用・・・気仙との合方が可能。

しかし、良塊仙を用いる場合は気仙との併用は厳禁。

※ガンの治療に関しては、各地区の勉強会で詳しく講義を受けてください。

・疎経活血湯系統証の代用に

組合せによる代用方法

神経痛・関節痛に対しての代用について

防已黄耆湯証に対してここでの働きは

体内のミネラルの不足・偏りを解消するために使われている（骨粗しょう症対策）

防已黄耆湯の代用としては、まず第１に牡蠣仙（ミネラルの補給として）が適用と考えられるが、「防已黄耆湯加麻黄証」においても骨粗鬆症を伴う神経痛なため「賦骨仙合牡蠣仙」が FC と考えられるが「防已黄耆湯加麻黄（瀉剤）」であり「賦骨仙（補剤）合牡蠣仙（補剤）」のため理論的には正反対のものとなる。できれば同じ瀉剤の形にしたい為

「竜仙合防已黄耆湯」「竜仙合牡蠣仙」が適している。

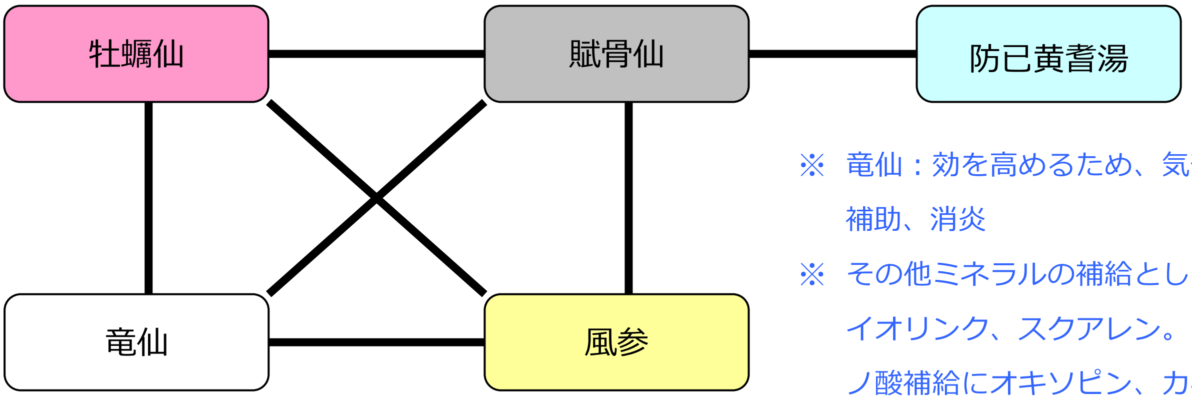
防已黄耆湯加味方・合方証に関して

製造業で例えるなら

・ミネラルが不足しているもの　・・・　牡蠣仙　（原料）

・食欲も少なく、栄養不良、体力低下しているもの・・・風参　（労働力）

・骨の修復・神経伝達の向上　・・・　賦骨仙　（設備）といったところかな



※　竜仙：効を高めるため、気剤の補助、消炎

※　その他ミネラルの補給としてバイオリンク、スクアレン。アミノ酸補給にオキソピン、カキ肉エキスを加えるのも１つ。

※雲竜仙で炎症も取れるので検討する

上記の６種類の製剤を１から３種類を組み合わせることで同じ基本処方の証であっても代用の組合せは人によって変わってくる。（患部の状態、体質、食事の内容などによって）

例）防已黄耆湯合桂枝加苓朮附湯証の場合・・・２種類の組み合わせだと

防已黄耆湯合賦骨仙　　賦骨仙合牡蠣仙　　風参合牡蠣仙　　賦骨仙合風参・・・

代謝が衰えていない　代謝が衰えた人

どういった組合せが、その患者さんにとってベストなのか糸練功で確認。

鼻の症状に対しての代用について

アレルギー性鼻炎・花粉症に対して

小青竜湯
小青竜湯加石膏（＝竜仙合小青竜湯）
苓甘姜味辛夏仁湯

} 鳳水仙で代用が可能（効果：速）
風参合牡蠣仙でも可（効果：遅）

麻黄附子細辛湯（表裏寒強い）　・・・・・　竜仙合鳳水仙　、　鳳水仙合風参
（唐沢先生愛用の組み合わせ）

・鳳水仙は鼻炎だけでなく、抗アレルギー作用があるため、アトピー等のアレルギーや蕁麻疹、痒みに使用できる。

・小青竜湯系統証の場合、鼻水が多い傾向があればスクアレン、免疫も考慮したい場合は黒芝
苓甘姜味辛夏仁湯証の場合は、血虚があるため補う必要性がある。緑のもので補剤ならば
バイオリンク（少し酸化させると良い）、風参、桜精、鉄剤を併用すると効果が早くでやすい。

蓄膿症に対して

葛根湯加川芎辛夷
葛根湯加味方証

} 竜仙合葛根湯
竜仙合葛根湯加川芎辛夷　を用いる

※どちらの病態にも共通して言えることが 1 点ある

風邪を引く（鼻かぜを引きやすい傾向がある）とこれらの患部の合数は低下しやすく、症状も強くぶり返す可能性が高い。それらを防ぐ為には風邪を引かないことが重要なため、風参やスクアレンで予防が出来るとベスト。

風参合牡蠣仙について

ここまででも色々と使い方が出ていますが、その他には
アトピーのかゆみに対して（アトピー対策で作った）や、
葛根湯加石膏証、十味敗毒湯加石膏証
連珠飲（四物湯+苓桂朮甘湯の合方）、温清飲　の代用にもなる